静岡文化情報

街かど

No.5

1996.1

静岡木工挽物イメージアップ事業
時代へのメッセージ――テーブルの小ものたち
容器・花立・キャンドルスタンド・サラダボールセット
デザイン――ミケーレ・デ・ルッキ

財団法人 静岡市文化振興財団

CONTENTS

静岡市として残したい文化・創りたい文化③
見直したい今川文化
清水国際高等学校教諭　前田利久……1

伝統文化と「とろろ」の里丸子
丸子路会会長　柴山信夫……4

文化のルーツを求めて⑤
静岡挽物
静岡挽物組合理事長　小梁平三郎……6

若者文化の創造をめざして
静岡ヒューマンカレッジ代表　深沢街子……7

静岡音楽館ＡＯＩのこれから
静岡音楽館ＡＯＩ館長・芸術監督　間宮芳生……8

がんばっています!!　市民の文化活動……10
静岡市川柳協会・静岡市三曲協会・静岡市水石会

INFOMATION……12

編集後記……13

● 静岡市として残したい文化・創りたい文化③

見直したい今川文化

清水国際高等学校教諭　**前田利久**

脱“葵”の伝統

静岡市の名産や旧跡を紹介したものには「家康公ゆかりの‥‥」という説明が多いが、こうした傾向は古く江戸時代からあった。それは「そもそも、当家は権現様（ごんげんさま）（家康）の時に‥‥」といった家康との特別な関係を強調することで、幕府や地域から生業上での特権を得ようとしたからである。こう考えると葵の御紋の威光に依存する習慣自体が、いつしか静岡の伝統となってしまったようである。このように徳川家康から始めれば、難しい説明をしなくても由緒正しいものになってしまうが、その便利さのあまり、江戸時代の駿府の繁栄が今川家10代、230年の治世によって築かれた繁栄の上に成立していたことを見逃してしまい、静岡の文化や伝統を理解するうえで損をしてはいないだろうか。家康一個人にルーツを求める前に、家康を育んだ今川時代の駿府にも目を向けたい。きっとそこに、新鮮で偉大な文化が潜んでいると思われるからだ。

＊　　＊

今川時代に開花した“寄合（よりあい）の文化”

今川時代の駿府が“小京都”にたとえられる理由の一つに、数多くの寺院や神社があったことが挙げられる。特に寺院については、今日でも市内に多く見受けられるが、歴史上一番多く建てられたのが今川時代であったと思われる。というのも、今日のような多数の檀家に支えられた寺院とは違って、当時は特定の強力なスポンサーによって一寺が設けられたからである。したがって、今川氏の場合は当主や夫人、子供にいたるまで一

◀浅間神社拝殿

▲今川家の馬験（うまじるし）「赤鳥（あかとり）」の旗

▲今川義元木像（臨済寺蔵）

人に一寺ずつが菩提寺として用意され、これは重臣においても同様の傾向にあった。寺院が多かったことにより、当然その建立から修復、行事などに多くの職人や商人たちが携わることとなり、職人町や商人町が形成された。したがって、江戸幕府による浅間神社や久能山東照宮の造営事業も、こうした既存の集団に依存したわけである。

戦国大名となってからの今川家は、9代義元の子氏真（うじざね）の代に武田信玄によって滅ぼされるが、それまで駿府は一度も侵略されることはなかったし、安倍川の氾濫に見舞われることもない平和な町であった。しかも7代氏親（うじちか）のころからは、京都から公家や僧侶たちを積極的に招き入れ、彼らを通じて京風文化を摂取すると同時に中央との人脈を広げていった。

当時公家は、伝統的な権威と文化は持っていたが、応仁・文明の乱によって疲弊して没落の危機に瀕していた。このため公家たちにしてみれば、駿府は平和と豊かさが保証された町で、そのなかで自身の技を磨き“お家芸”を守る機会を得ることができたのであった。僧侶にしても、同様に京都から高僧やその弟子が招かれて大寺の住持となったが、今川氏は、そればかりでなく、地元出身の僧を支援して宗長（そうちょう）や太原崇孚（たいげんすうふ）（雪斎（せつさい））といった優れた人材を育てた。こうして駿府には文化人が集まり、和歌・連歌・茶の湯・香・立花（りつか）・蹴鞠（けまり）・能・狂言・舞楽など、多種にわたる中央の文化が花開いた。これらの文芸や芸能は今川家当主・家臣・公家・僧侶・神職らが集まって、一味同心、一座共感できる寄合の文化であり、こうした席を通じて連帯感を深めたり情報を集めることができた。またこの席が、文化の創造と情報を発信する場所でもあった。

一方、寺院や神社は、庶民が寄り合う場所でもあった。たとえば浅間神社の流鏑馬（やぶさめ）や三月会（さんがつえ）、宝樹院の踊り念仏、立泉寺（りゅうせんじ）（現宝台院）の念仏、新光明寺の女房狂言などは、庶民が文化に触れ、享受できる場所であった。特に女房狂言の場合は、有料であったにもかかわらず6日間の興業のうち、最初の2日間だけで2000人もの見物人が集まり、以後連日大群衆が押し寄せたという。これだけで当時の駿府の活気が伝わって来るが、こうした興業が営まれたのも、民衆の間に銭を出して芸能を楽しむという生活や精神面でのゆとりがあったからであろう。

室町時代後期の文化、すなわち東山文化の特色として、伝統的な公家文化・武家文化と京都五山を中心とした禅宗文化、さらに庶民文化が複合した点が挙げられるが、今川時代の駿府には、まさにこうした特色が反映されていたのである。駿府は人・物・情報・文化の交差点となり、そこに新たな今川文化が花開いたのであった。

“富士が在る町”

最後に、今度は京都と大きく違った点を一つ。それは町の至るところから富士山が望めたことである。西から下る旅人にとって、駿府に行くことは富士を見ることであり、富士を見るには駿府に行くことでもあった。つまり富士は駿府の顔であったのである。したがって、今川氏の館はもちろん、家臣や寺院の庭園には富士を遠景に取り入れた借景庭園があった。これは、さすがの京都でもまねのできない、ぜいたくな庭園であった。こうなると、富士が見える町というよりも“富士が在る町”と表現してもよいだろう。

当時の駿府の住人が誇り、旅人の誰もが認めた日本一の町の表情。“富士が在った町”とはならないで欲しい。

＊　　＊

柴屋寺（さいおくじ）▶

▲蹴鞠

駿府公園よりみる富士▶

伝統文化と「とろろ」の里丸子

丸子路会会長　柴　山　信　夫

丸子には、弥生、古墳期の埋蔵文化財が発掘調査され、2,000年の歴史が秘められていることが知られる。高草山系の最古の東海道は日本坂－手児の呼坂－駿河の国府へと通じ、平安期から宇津の谷峠が「東海道伝馬制」の制定により開かれ、丸子の宿も誕生した。

文学的には万葉以来の歌枕「手児の呼坂」、平安期からの西の歌枕「蔦の細道」と遠く都人たちにも知られるようになった。

国道１号線と並行した旧丸子宿は、江戸から数えて20番目、参勤交代の大名たちが泊る本陣、脇本陣、荷物を扱う問屋場など、幕藩体制下の本陣は宿場の中核として、260年間、東西交流の歴史を展開してきたが、今や往時の面影はなく、「三度屋」、「柿屋」と屋号で呼びあってはいるが、格子戸の家並も減り、本陣跡に名残の碑を留めるに過ぎなくなってしまった。

１号線の行手を阻むかのように丸子城跡が迫る。室町期の初めから150年間、戦国動乱の駿府の西の砦で、今川、武田両戦国大名により、自然の地形を巧みに利用して、曲輪、空堀を築いた。特に武田流の築城には、三ヶ月堀、捨て曲輪などが残されている、城跡に通ずる道は、静岡市のミニハイキングコースに指定され、県内外からの見学者が絶えない。遺構の保存度は全国的にも稀な城跡と、文化庁でも国の史跡指定の有力な中世山城と認めているという。

丸子城跡入口より徒歩３分、銀閣寺の庭を模したと伝えられる吐月峰柴屋寺は「国の史跡名勝地」、今川７代氏親の厚遇で、連歌師宗長 法師が草庵を結んだところ、風雅さと雄大な借景園は、室町時代の遺産を伝えるものである。

大 鈩の山懐に、頼朝が両親の追善供養のため創建されたという誓願寺があり、京都方広寺の「鐘銘事件」で有名な片桐且元夫妻の苔むした墓があり、池は天然記念物の「モリアオガエル」の生息地で知られる。

宇津の谷の初見は平安初期の『和 名 抄』に「内屋」とあり、蔦の細道は「うつの山越え」「蔦の下草」とも記され、『伊勢物語』の主人公、在 原 業平の「駿河なる宇津の山辺の…」の一首が蔦の細道の名を生み、800年間の官道となり、文学の道、詩歌の道、戦の道ともなった。

小田原攻めで、秀吉は宇津の峠路を越え、お羽織屋に戦勝の陣羽織を遺し（市文化財）、河竹黙阿弥は「蔦紅葉宇津之谷峠」のお芝居を、北斉、広重は浮世絵の画題を、森川許六は俳諧17文字と、江戸庶民文化の舞台となった。

名物とろろ汁の初見は、宗長法師の「年の暮、茶、炭、薪と山のいも、ねてのよるよる、むつごとにして」と正月には欠かせない珍味であったことが伺える。

俳聖芭蕉は、大津で弟子の乙州の旅立ちに、「梅若菜、丸子の宿のとろろ汁」の名吟を餞とした。

静岡生まれの十返舎一九は、『東海道中膝栗毛』で笑いの場を丸子のとろろで盛り上げている。

天保３年（1832）、浮世絵師安藤広重は名物茶屋を描き、「丸子のとろろ味よし」とつけ加えている。

芸術家岡本太郎の母、かの子さんは『東海道五拾参次』で、「炊き立ての麦飯の香ばしい湯気の神仙の土のような匂いのする自然薯は落ち付いた美味しさがあった。私は香りを消さぬように薬味の青海苔を撒らずに椀を重ねた」。

日本の山野の広く自生する自然薯だが、なぜ丸子に名声を遺してくれたのか、温暖な気候と土質が良質な山芋を授けてくれた。その自然の幸を、宗長、芭蕉、一九、広重らが、時代を超えて、食文化史上の名作で世に広めてくれた。

丸子はとろろで象徴される里になり、自然食ブームもあって、丸子路を訪ねる人は、今も絶えない。

丸子は時代の特色ある文化遺産を秘めた誇れる里である。

昭和26年（1951）、丁子屋亭主となり、先人達の足跡多い丸子に魅せられ、「郷土鞠子を愛する会」「丸子路会」の会長20余年。数基の史跡碑を建立。自然薯栽培指導20年、「人の命を支える土」を学び、健全野菜作りに専心。丸子七丁目在住、大正14年生。

◀丸子城跡からの丸子の展望。右側に丸子宿の家並が見える

▲宇津の谷
慶龍寺の許六の句碑

◀宇津の谷　お羽織屋
（現当主　石川俊一氏）

秀吉の陣羽織▶

▼十返舎一九顕彰碑（丁子屋前庭）

静岡挽物（しずおか　ひきもの）

静岡挽物組合理事長　小 梁 平三郎

私たちの身の周りには多くの挽物製品があり、木製品で丸い物のほとんどに挽物の手法が用いられている。挽物の歴史は、以外と古く、現在「百萬塔」と言われる三重小塔があるが、これは天平宝字８年(764)称徳天皇の発願により、100萬基を作り、中に経巻を納め、南都10大寺に10萬基ずつ分置され、平和祈願をし、合わせて社会経済の立て直しに大変な役割を果たしたと思われる。

今は法隆寺に２萬6,000基余り保存されている。挽物の祖は今から1100年程前、文徳天皇の第一皇子（惟喬親王）が、約束された王位を捨て、現在の滋賀県永源寺町に入られ、土地の人たちに挽物の技術を指導され、その弟子たちが全国に分散し、食器類からこけしの類まで生産されるようになった。

◀花器

静岡では今川氏の頃、現在の西草深町（昔は御器屋町）に中川姓を名乗る一族が居て、ロクロ挽の木製椀を一貫作業で製作していたと言われ、国１バイパス工事では数々の出土品があったと言われている。

元治元年(1864)、酒井米吉が商用で箱根へ出掛けたとき、山中で怪我をしたが、たまたま通りかかった小田原の米穀商戸倉常次郎に助けられた。しかしながら、足の怪我がひどく酒井米吉はその後銘木商を続けることができなくなってしまった。このため戸倉常次郎より箱根湯元の挽物職人を紹介されて挽物業を開業(静岡市下石町で)すると多くの人が集まり、技術を習得して伝承されてきたが、当時は足踏みロクロと言われ、足の力でロクロを回転させながら作業を行っていたが、明治30年(1897)頃、蒸気機関が導入され、近代化への歩みが始まった。

静岡では明治40年（1907）頃、大阪より木工挽物旋盤が導入され、機械化が図られるようになったが、大正３年（1914）には蒸気機関から電動機に動力が転換され、工具機械ともに発展してきた。

静岡における木工挽物旋盤の保有は昭和20年（1945）頃までに10企業たらずで、技術者の数も少なく、昭和25年（1950）頃より米国向けの輸出用挽物の生産が始まると、徐々に増加してきた。

昭和30年（1955）代には保有台数も増加して、組合による技術講習会の実施や刃物技術の向上、材質の硬度化などにより製品の向上が図られた。しかしながら、基本的な手挽き技術による生産は減少傾向となり、機械による大量生産方式で、家具のつまみや脚などを製作する企業が多くなってきたが、未だにその技術は健在で、多くの素晴らしい製品を造り出している。

近年新たな取組みとして海外と国内の著名デザイナーとの連携により伝統技術とニューデザインの融合によるファショナブルな新商品の開発を行うなど新分野への進出も図られている。

小梁平三郎氏プロフィール

昭和20年（1945・16歳）父小梁徳次郎に師事、後長兄小梁忠一の指導を受け、昭和37年（1962・34歳）独立。伝統的な技法を守りながら機械化への研鑽を積み、伝統とモダンとの融合を模索している。一級漆器素地製造技能士、静岡県優秀技能者、静岡挽物組合理事長として活躍中。中野新田在住（67歳）

若者文化の創造をめざして

「まちは劇場、大道が舞台、静岡が祝祭都市になるためには」

静岡ヒューマンカレッジ代表　深 沢 街 子

静岡ヒューマンカレッジ倶楽部はこれまで静岡にはなかった新しい伝統を創ろうと、アースデー・イン・静岡やストリートミュージックフェスティバル（SMF）、大道芸とまちづくりを考えるイベントなどを企画、開催してきた。これらの事業は街というハードを造ることを前提にしているのではなく、市民として私たちは何を考え静岡をどういうまちにしていきたいかという「まちづくりの根本」を問いかけるものである。これからの静岡をつくってやろうという意気込み、そして、それをつくれるだけの知恵とセンスを兼ね備えた市民に、私たちがなれるかということが問題であり、そのための「生涯学習」が求められている。

古来、建物がなくても人が集まればそこは「まち」だった。農耕をし、神に祈りを捧げれば「むら」だった。その人々のエネルギーを爆発させていた芸能や芸術を現代のまちに呼び戻すにはどうしたらいいのか？今回のテーマ「まちは劇場、大道が舞台、静岡が祝祭都市になるためには」を私たちなりに考え、提案する場をもちたいと考えている。

時あたかも県主催による「シアターオリンピック」が開催されるべく準備が進められているが、私たちが「大道芸」や「SMF」を通じて手探りしている新しい都市への展望とそれの接点がどこにあるのかは、実は誰にもわかっていない。「大道芸のまちづくり」と「シアターオリンピックス」が私たちの静岡のなかでどうつながっていくのか、そのためには何をやったらいいのか、私たちは何が提案できるのかということを真剣に考えたいと思う。

私たちは、この「祝祭都市を考える」イベントを、古代ギリシヤの『シンポジオン』(饗宴）のイメージで平成８年３月下旬に実施する予定である。地元の名産などを飲み食いしながら私たちの提案するまちづくりをベースにして語り合う形式である。「わからないことをわかっているような顔をして語る」イベントではなく、まちづくりに関心のない人も何かを感じてもらえるような等身大のものにしていく。講師は詩人、大道芸人など、評論家や単なる文化人ではなく、その道に深く入り込んでいる当事者を招くつもりである。私たちがどんな提案をすることができるのかを期待してほしい。

深沢街子氏プロフィール

1961年静岡市生まれ。静岡双葉高校。早稲田大学卒業。中学・高校の英語教諭を経験後、アメリカに留学。行政管理学を学ぶ。帰国後、予備校の運営、子供向けのコンピュータスクールの企画・運営に携わる。静岡ヒューマンカレッジ倶楽部代表を３期つとめる。

◀大道芸とまちづくりを考える

静岡音楽館ＡＯＩのこれから

――第１回市民音楽祭の開催――

静岡音楽館ＡＯＩ館長・芸術監督　**間宮芳生**

静岡音楽館ＡＯＩが、やがて誕生満１年をむかえる。開館記念のシリーズの26のコンサートは、仏教声明、能狂言などの日本の伝統芸術、名手たちの名演によるかおり高い室内楽のたのしみ、国際的な音楽家や子供たちの交流から生まれた新しい作品の創造（「木々のうた」の初演）など、多角的プログラムを含み、音楽ホールのあり方の新しいモデルとして、国の内外からの注視を集め、その存在をアピールすることが出来たと思う。

開館の年のコンサートの内容を知らせるチラシに、私は音楽館のしごとの大切な理念として、次のように書いた。（１）才能豊かな内外の音楽家の実力と熱い意欲を最高にひき出すプログラム。（２）世代を継ぎ、次代を創る音楽鑑賞力のくさり。（３）地球上に人間と自然、そして人間同士の真の調和をつくるという文化・芸術の使命。

来たる４月からはじまる２年目の音楽祭も、もちろんこの基本理念のもとに企画された。予告通り、静岡市民を代表して音楽館のしごとに参画する10人の市民会議委員が、たびたび相寄り練り上げた17のプログラムが展開される。その中から注目してほしい点をいくつか紹介しよう。

多彩な音楽祭プログラム

まず、静岡出身で、内外の第一線で活躍している二人、リコーダーの吉沢実と、ピアニスト長谷川さち子のコンサートがあるが、その内容がすばらしい。春の吉沢実のコンサートには、彼自身が講師になって音楽館ではじまったリコーダー講座の沢山の市民受講者が演奏に参加する楽しいステージが展開する。一方、秋には長谷川さんが、仕事仲間のベルリン・フィルのメンバーたち（弦楽）と組んで、室内楽のコンサートを開く。

今年の音楽祭のために、静岡音楽館では、世界の作曲界で注目の二人、中国出身のキュー・シャオソン、ハンガリーのラースロー・シャーリーに新作の委嘱をした。その二つの新作が初演される５月の「作曲展」も、注目のコンサートである。

浅間神社稚児舞（10月15日公演）

折々のうた朗読　大岡信　豊田喜代美（11月７日公演）

さらに、秋のシリーズには、世界の楽壇に新風を吹き込んだ若手名手たち、ロシアの若きプリマドンナ、ブリリョーワ（ソプラノ）、ヴィヴァルディの「四季」の革新的な演奏で話題をさらったアンサンブル、“エウロパ・ガランテ”、ヴァイオリンのムローヴァなどが次々に登場する。

去る11月に行った「静岡の名手たち」オーディションには、個人、グループ合わせて136という多勢が腕をきそい、その中から選ばれた17の個人またはグループが、春と秋と、二度の清新なコンサートをくりひろげる。応募者中最年少（７歳）と最年長（58歳）の二人がともに見事合格してコンサートに登場するのも話題である。

次代への贈りものとしては、幼児のためのコンサートとして、スライド映像と、お話と演奏による、ものがたり音楽「象のババール」があるが、これは水戸芸術館との提携の出しものである。

公開講座や研究会の開催

音楽祭の開催ばかりでなく、1996年はもっと多様なしごとの計画がある。現在はじまっているリコーダー講座に加えて、他にもいくつかの公開講座や研究会がはじまるだろう。静岡市教育委員会の協力を得ての、若い世代（中・高生）への贈りものとしてのコンサートや講座の計画もある。

静岡市が、こんど政令指定都市に準ずる「中核市」に指定されたそうだ。

去る５月の開館記念式典の日、私はこの音楽館のホールにいて、未来への夢がつまった卵の中にいるようだと感じていた。その夢を多くの聴き手や音楽家たちと一緒に育ててゆきたい。いつか日本の音楽分野のひとつの重要な中核と見なされるように。でも、中核になることは目的ではなく、結果でなければならないのではないだろうか。

＊　　＊

農民音楽とバルトーク　歌・波多野睦実　ピアノ・野平一郎(11月10日公演)

ロンドンブラス（11月29日公演）

※写真は1995年に開催した「国際音楽祭」より

がんばっています!! 市民の文化活動。

川柳を通して諷刺と人間探究と

静岡市川柳協会会長　平山虎竹堂

川柳は、人間の心や社会の動きを五七五の十七音字でつづる短詩型文芸で、同じ十七音字の俳句の花鳥諷詠に対し、川柳は人間探究と社会の諷刺である。全国的には社団法人「全日本川柳協会」が毎月会合を催して川柳の健全で新しい発展啓蒙に努めている。因に、昨年11月行われた“第10回国民文化祭”とちぎ'95文芸大会川柳部門において静岡市のたかね川柳会の吉村小名樹君の作品が栃木県知事賞の栄誉に輝いた「樹が神にならなくなって森が死ぬ」である。

当市文化団体連合会でも春は市民文化祭、秋は芸術祭と市民川柳大会を開催して市民の川柳熱を煽っている。11月5日の大会も熱気溢れる大会で、新鮮な作品が多く、充実し盛会であった。天位の句を抜粋すると下記の通りである。

向う岸に移ると少女蝶になる
堀場　梨絵

手に触れて捲くゼンマイの音が好き
森　青蘭

鉛筆の転んだ方へ向くカラス
多田　幹江

澄み切った瞳の人だ信じよう
杉山　俊郎

水はまだ枯れぬ夫婦の思いやり
堀場　梨絵

怪物の呪文が解けぬ東大出
寺田　柳京

連絡先：静岡市六番町16-3
静岡市川柳協会会長　平山虎竹堂。☎ 253-1578

海外演奏で国際親善

静岡市三曲協会会長　大場晴山

▲上海花園飯店ホールにて中国要人を招待しての県知事を囲んでの記念パーティ

箏（こと）・三絃（さんげん）・尺八を教授する者で結成している静岡市三曲協会は、昭和13年(1938)に創立された。設立以来、事業として、演奏会を毎年5月に欠かさず行ってきた。これは静岡市の年中行事になり、広く市民に親しまれてきた。現在は静岡市民文化祭の三曲演奏会となり、平成8年度は、5月19日、市民文化会館にて第58回目を行う運びになっている。

昭和55年（1980）頃から会員の中でグループを組み、スイス、オーストリヤ、ニュージーランド、中国等に海外演奏をした。なかでも、昭和55年（1980）には、中国人民大会堂で、日中の高官約500人を前に、三曲を披露し、折しも始まったばかりのテレビで中国各地に放映されたことは誠に圧巻だった。平成6年11月には静岡県知事を団長とする静岡県友好代表団に15名が選抜され、上海、杭州で、中国側招待客との友好パーティの席で「春の海」など数曲を披露し、大好評を博した。杭州では、中国の楽団と交互に演奏し、お互に興が乗り、最後には日中楽団の合奏ということになった。いずれの海外演奏も、我が国の伝統音楽を広く海外に宣揚し、親善の大役を果たすことができたと思う。

静岡市に在住し、箏・三絃・尺八を教授している方で、三曲協会に加入を希望される方は、下記にご連絡を。

静岡市登呂4-22-1
大場晴山　☎ 286-4352

＊　＊

大自然が作った宝物水石文化

静岡市水石会会長　中谷高光

山や川で採取してきた石を水盤や台座をつけてその大小に応じて玄関や床の間、テレビの上など屋内と庭などに置いて楽しむ趣味を「水石」または「愛石」という。

もともと中国から入って来た文化で、平安時代には貴族の間で、また戦国時代は多くの有名な武将が愛玩（がん）されていたという。今や日本を初め中国、韓国、台湾、タイ、インドネシヤや、アメリカ等全世界に愛好者が拡がっている。

静岡県は安倍川が全国屈指の名産地と言われ、他の四大河川も名石を産出するので愛好家の活動も盛んである。

石の見方として自然景観を思い起こされる。その縮小が、山水景石、何かに似た形の形象石、石面に紋様のある紋様石、色を楽しむ色彩石、など分類がある。

山や川、海辺に行った時、何となく心を引く石があったら持ち帰ってみよう。洋皿や水盤にでも置いて見ると一つの景色が浮んでくるかも知れない。たとえ何の形のないものでも石の力（勢い）、質感、肌合いなどが伝わり心が静められるはず。自然が何千万年もかけて作った世界でたった一つの宝物をめでるロマンチックで健康的な遊びである。

連絡先：静岡市材木町15
静岡市水石会会長（中谷方）
☎ 271-6541

静岡音楽館AOI　'96春のシリーズ

2月15日より発売予定

問い合わせ先：静岡音楽館ＡＯＩへ（☎054-251-2200）

開催月日	公演内容	入場料
4月14日（日）PM2：00	静岡祝祭管弦楽団	全指定　3,000円
4月20日（土）PM7：00	須川　展也　サクソフォーン・リサイタル	全自由　2,500円 高校生以下　1,000円
4月21日（日）PM2：00	静岡の名手たち	全自由　1,500円 高校生以下　1,000円
4月25日（木）PM7：00	小山　実稚恵　ピアノ・リサイタル	全指定　3,000円
4月27日（土）PM2：00	音楽物語・ぞうのババール	全自由　1,500円 高校生以下　1,000円
5月8日（水）PM7：00	タチアナ・フェディキナ　ピアノ・リサイタル	全自由　2,500円
5月11日（土）PM2：00	吉沢　実のリコーダーの音風景	全自由　2,000円 高校生以下　1,000円
5月12日（日）PM2：00	作曲展	全自由　3,000円

■ **チケット取扱所**：静岡音楽館ＡＯＩ　7階受付，ＪＲ東海静岡主要29駅みどりの窓口，チケットセゾン　すみや本店，静岡谷島屋本店

●文化講演会

「ゴッホのひまわりを読む」

- 講師
  総合美術研究所所長
  瀬木慎一氏
- 日時／平成8年3月3日（日）
  14：00～16：00
- 場所／静岡音楽館ＡＯＩ　7階
  （静岡市黒金町1-9）

▶問い合わせ先：㈶静岡市文化振興財団（☎054-255-4746）

編集後記

青壮年の世代は、とかく仕事一途の生活になり勝ちだと言われています。

ところが現実として人生50年から人生80年時代に突入した現在、明日があるからと当てにせず、しかも、遠い先の自分を頭において今日の日を楽しく充実して生きていくことが求められています。

そんなとき頭に浮かぶのが趣味・文化活動に親しむことではないでしょうか。

実は、それらを通して「友人を得た喜びや、自分が高まった喜び、さらには趣味・文化等の活動を通して身につけたものを他人や社会にサービスしていく、与える喜び等々」、数数の生きがいを身につけることができる筈です。

人生80年時代は文化の時代ともいえましょう。前述の「喜び」を多く味わっている人は常に「にこにこ」している筈です。文化振興財団は文化活動を通して皆さん自身のにこにこ顔の人生構築に期待し、そのためのお手伝いは惜しまない積りです。文化活動についてのご意見・ご要望・情報等ございましたらご遠慮なく下記にお願いします。

(財)静岡市文化振興財団（TEL･FAX 255-4746）

静岡文化情報『街かど』　第5号
平成8年2月1日

編集・発行
(財) 静岡市文化振興財団
〒420 静岡市5番1号
静岡市教育委員会
(市役所14F) 文化振興課内
TEL･FAX (054) 255-4746
印刷　株式会社 三創
静岡市中村町166-1
禁無断転載・複写

専門書・一般書・洋書・雑誌

株式会社 吉見書店

本店
七間町3番地(伊勢丹西となり)
☎(054)252-0157(代)

竜南店 千代田4丁目3-10(静岡市立高校北)
☎(054)246-2653

県立総合病院店 北安東4丁目(県立総合病院内)
☎(054)247-6111(内線2088)

心の翼ひろげよう……一冊の本

江崎書店

本店／静岡市呉服町2丁目6番地8 ☎054-254-4481 FAX054-254-4674

パルシェ店／静岡駅ビル5階 ☎054-255-8598
小鹿店／静岡市小鹿420－1 ☎054-284-4511
千代田店／静岡千代田小東隣り ☎054-262-6922
アスティー東館／静岡駅南口構内 ☎054-282-6124
袋井店／袋井市川井美作1416の4 ☎0538-42-9100
磐田店／磐田市今之浦3丁目 ☎0538-32-2210
向ヶ丘店／小田急線向ヶ丘駅前 ☎044-922-0090
八重洲店／東京八重洲大地下街 ☎03-3274-5907
成城店／小田急線成城学園駅前 ☎03-3417-1271
新大久保駅前店／山手線新大久保駅前 ☎03-5330-2991

知性、気ままに
Book City

書店 谷島屋 静岡

本店／静岡市呉服町2丁目5の5 ☎〈054〉254－1301

高松ショップ〈054〉237－4411
瀬名ショップ〈054〉261－4411
流通ショップ〈054〉262－2321
手越ショップ〈054〉258－2844
新富士ショップ〈0545〉61－2852
榛原コスタショップ〈0548〉22－4145